

寅さん歩 その20

官公庁の食堂めぐり-23 荒川区役所



平野 武宏

昨年は東京の大学の学食を食べ歩きました。「寅さん歩」の愛読者から「次はお役所や企業の食堂をお願いします」との声がありました。日本の中枢、中央合同庁舎のある霞が関・大手町や東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催で盛り上がっている東京都庁の食堂を訪問しました。これからは東京 23 区の区役所の食堂を訪問します。

東京 23 区に番号が付いているのを初めて知りました。そのもとは旧自治省（現総務省）が作ったコード番号表です。旧江戸城＝皇居や霞が関官庁街のある千代田区が 1 番です。千代田区を中心に、ここから「の」字にぐるぐる回る順番のようです。

今回は 18 番の荒川区です。このテーマは訪れるだけでなく、実際に食べて・コメントが必要です。取材やコメントでは関係者にご迷惑をかけないように配慮します。メニューの選択やコメントはあくまでも「寅次郎の好み・独断」としてお読みください。室内の写真撮影は人物の顔が写り込まないことが原則です。メニューや値段は訪問時のもので、最寄り駅は代表例です。

【荒川区役所】 荒川区荒川 2-2-3

最寄駅 都電荒川線(愛称:東京さくらトラム) 荒川区役所前停留場

東京に残った唯一の都電荒川線(三ノ輪橋～早稲田 12.2Km、30 停留場)は 2017 年 4 月「東京さくらトラム」を愛称として発表しました。

公募で第一位の沿線の桜をイメージしたそうですが、沿線のバラも有名で未だ浸透されていない感です。荒川線というと「荒川区」のイメージが強いので、通過する「豊島区」、「新宿区」も

意識して愛称を決めたようです。写真右上は荒川車庫で、黄緑の着ぐるみはマスコットキャラクターの「とあらん」です。

寅次郎の住む「大塚駅前」で山手線「大塚」駅に接続しています。都電ですので東京都シルバーパス(70 歳以上で購入可)で乗り放題です。「荒川区」は 1932 年(昭和 7 年)東京府北豊島郡だった南千住町、三河島町、日暮里町、尾久町が東京市に編入されて誕生した。



区名は現在、隅田川と呼ばれている荒川の河川名にちなんだとのこと。もともと隅田川とは荒川が半円を描いて大きく曲がる南千住8丁目以南の白髭橋あたりからの河川名ですが、北区岩淵に水門（写真右）を設け、荒川放水路に分流しました。この改修工事が完成した頃から岩淵より下流全域を隅田川と呼び、放水路の正式名称が荒川となりました。放水路の完成で流域住民は河川の氾濫から救われました。



荒川区一帯は江戸時代では農村、現在の南千住駅の西には江戸三大刑場の小塚原刑場がありました〔他の二つの刑場は鈴ヶ森刑場（品川区）、大和田刑場（八王子市）〕。明治時代からは荒川の水を使うため多くの工場が建設され工業化が進みました。現在はその工場跡地を活用した大規模な再開発や公園整備が行われ大規模なマンション建設で人口が増加しています。

荒川区役所前停留場から明治通りに出ると、荒川区役所（写真右）があります。前は荒川公園です。



〔レストラン さくら〕

6階建ての地階1Fに食堂「レストラン さくら」があります。地下ですが周囲の窓には緑が映えて明るい雰囲気、ランチ営業時間は11時～14時です。写真下左は月1度の特別定食 牛ステーキ丼 500円（小鉢は選択）。写真下右は冷やし担担麺 500円です。



他のメニューはいずれも日替わりでスペシャルランチ 560円、健康ランチ 530円、おすすめランチ 440円、満点メニュー 500円、月の内5日間はサンキューメニューで 390円（例：麻婆豆腐等）そば 330円～540円（セット）、ラーメン 360円～540円（セット）、カレー 320円～450円、チャーハン 350円と多彩です。

区広報部発行の「ガイドマップあらかわ」では、荒川区は俳句のまち（芭蕉の奥の

細道出立の地)、読書のまち(読書施設の充実)、文化財・史跡が残るまち(日光道中、千住宿他)、にっぽり繊維街(おしゃれな情報基地)、職人のまち(伝統工芸技術の伝承)、都電が走るまち(都電とバラのコラボ)、銭湯で温まるまち(地域の社交場の銭湯が多い)と紹介しています。

「寅さん歩」の荒川区紹介は次の通りです。番号は「寅さん歩」の目次番号です。

都電荒川線沿線：2、東京の富士塚めぐり：29、健康ご利益めぐり：66
江戸・東京の祭り：85、100、花の祭り：88、94、新しい祭り：95
東京にこんなところ：129、江戸・東京(23区)の百名山：145
東京の桜：167、江戸の閻魔大王：169

荒川区の木は「サクラ」、花は「ツツジ」です。



【バーチャルウォーク 途中経過】

2018年(平成30年)10月1日沖縄県辺戸岬をスタートした聖火は沖縄県那覇市から鹿児島県、宮崎県、大分県、福岡県、山口県、岡山県、兵庫県、大阪府を経て京都府に入りました。

2019年(令和元年)8月3日現在、スタートから1152Km地点(京都三条大橋)に到着しました。

風の便りによると「バーチャル&リアル東海道五十三次を歩く」で日本橋を出立、6月19日中間点の袋井宿を通過のFWA会員 片山忠夫さんはすでに京都三条大橋に到着されたとのこと。

ウォーキングでは人や自然との多くの「出会い・ふれあい」があります。寅次郎も「映画の寅さん」に負けないくらいの人との出会いがあります。ご迷惑をかけない範囲でご紹介します。

【寅次郎がウォーキングで出会った人ー22】

～ ボランティア精神あふれるアスリートのおしどりウォーカー ～

横浜市在住で1999年(平成11年)4月入会の佐藤礼子さんと2003年(平成15年)12月入会の佐藤尚さんご夫妻です。

礼子さんの週末の楽しみは仲間とのテニスでしたが、職場の若い子の旦那(礼子さんが紹介した)からぶどうが食べられ、ワインも飲める「山梨勝沼ぶどう郷マラソン」に誘われ参加、以降各地のフルマラソン大会を4時間台で走るアスリートです。横浜マラソンではゲスト参加の有森裕子さんとちょっとだけ一緒に走った楽しい思い出もあるそうです。

10年間マラソンを走り、他のテニス仲間から声がかかり「東海道53次ウォーク」

で日本橋～三島まで歩きウォーキングの楽しさを体験。新聞掲載の川崎歩け協会やよこはま歩け協会の例会に参加、ゴールしたら皆さんスタンプを押してもらっているのを見て、どこかの協会に入会しようとテニス仲間と各協会例会での対応を比較チェックしてスタッフが皆インテリっぽく、親切なFWAに決めたそうです。

当時の江尻会長や長津事務局長(寅さん歩 官庁の食堂めぐり-3・4を参照ください)にのせられて、一緒に入会のテニス仲間の金井真子さんと2004年(平成12年)スタッフになりお手伝いをしています。

金井さんと二人でFWA初の女性リーダー、2004年(平成16年)3月の「雛祭りウォーク」が一番の思い出とのこと。女性会員や旦那様の尚さんの協力で「葉」を作り、参加者へ配りました。中に入れる小さなお雛様づくりが大変でしたとのこと。寅次郎、15年間ご愛用しています。



又、2005年(平成17年)FWA初のツアー例会「湘南の海風・川風ウォーク」のキャッチコピー「感じてよね 湘南の風 ♪♪」は礼子さんの作品です。

ジムで筋トレと有酸素運動の一環でランニングマシンを歩いていた尚さんを始め、礼子さんによるFWA入会者数は一番多いです。テニス仲間から始まり、ボランティア仲間や出会い親しくなった方に声を掛けたとのこと。入会後のフォローも丁寧にされています。

尚さんのFWA入会動機は「マシン歩きに飽きが来ていた所に礼子に誘われ、行くだけ行こうと何回か一般参加、迷っていたらスタッフから縁起の良い会員番号888番で登録し、奥様から年会費をもらってあるからと言われ、そのままずるずる」とのこと。息のあったご夫妻です。

尚さん「自分のペースで歩きたいと、何時でも歩け、時間が有効に使えるイヤラウンド(YR)一本に絞りました」とのこと。たくましく日焼けして、黒ずくめの服装でさっそうとYRコースを歩いている姿に何度かお会いした寅次郎です。

2017年(平成29年)2月18日には歴代3人目のYRウォーク プラチナカード(FWAのYR表彰で参加回数1629回の偉業)を達成されています。



礼子さんが「横浜の菊御殿を見に行こう」と一声かけて集まった仲間たち(全員FWA会員)です。後列の左端が尚さん、尚さんの右三人目女性が礼子さんです。前列右端に寅次郎も写っています。皆、若いころの写真です。

初めて仲間 10 数名と出かけた大会が「青森ツデーマーチ」、職場の青森県事務所の人と仲が良く、八戸事務所の人には「今度青森にウォーキングに行く」と言うと、「美味しいものを食べさせるから何人でも連れて来なさい」と言われ、全員美味しい「うに丼」をごちそうになりました。遊覧船や浅虫温泉も楽しみました。

「せっかくウォーキング大会に参加するのだから、ちょっと目立とうと考え、旦那と相談、お揃いのTシャツを買い、大きな赤いりんごと大会名を印刷、アイロン掛けし全員着用して参加した」とのこと。大会本部からは壇上で紹介され、特別賞をいただいたそうです。その時に特に親しくなったのが女寅次郎 古川君子さんです。

(寅さん歩 官公庁の食堂めぐり-14 ご参照ください)

又、「草津よ〜いとこツデーマーチ」では親しくなったペンションを 13 年間貸し切りにし、旦那と仲間達を連れて大会に参加しています。

その後、残念ながら「草津よ〜いとこツデーマーチ」の開催は中止になってしまいました。

尚さん、医療費の 3%相当額を保険事業費として予算化という国の指針にウォーキング体験を活かし、当時のKWA江尻会長の協力も得て、仕事である建設業国保、保健事業の柱として健診事業の他にウォーキングを取り入れ、育て上げられました。このようにウォーキング普及にも貢献されています。

寅次郎、礼子さんからの心のこもった手紙・はがきを頂き、感激しています。

礼子さん「字が上手でないし、絵も趣味よと言えるレベルではありません。入会した頃、年上の方からの頂き物がたくさんあり当時はまだ携帯がありませんでしたので、そのお礼をどうしたらよいかと考えていたところ、旦那がハガキソフトを買ってきてくれました。はがきに季節の花や催事を印刷してお礼状を出すと、これが皆さんから喜ばれました。20 年続けています」



とのこと。右上は寅次郎が頂いた誕生日と新年のはがきの挨拶状です。

ご家族の介護の実体験もあり、ご夫妻は視覚障害者の援助ボランティアをされているそうです。1 週間の半分は視覚障害者の方の誘導やプールでの運動の介護、体育館での軽い運動の介助をしているとのこと。そういえば礼子さんが白い杖を持った方の手を引いてFWA例会に参加している姿を幾度かお見かけし、頭が下がる思いをした寅次郎でした。

「野沢温泉菜の花ツデーマーチ」には視覚障害者の方 3 名と一緒に参加し、旦那に協力してもらい 25 km コースを完歩したそうです。

礼子さんに1週間の残りの半分の過ごし方を聞いたら「テニス、岩盤浴、ランチ会、ウォーキング例会、YR、全国にいる友人とのやりとりなど」と人生を満喫している様子を楽しく話されていました。

尚さんの1週間の半分の過ごし方は「スポーツジムで筋トレ、読書 図書館通い、パソコンでの株の取引やゲーム、もちろんYR歩きも継続」とのこと。

ご夫妻揃ってお持ちの企画力、実行力、行動力、コミュニケーション能力は素晴らしく、そしていつでも旦那様が傍で見守り、援助される姿はうらやましい限りのおしどりウォーカーです。

今回は **バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へ**ー13 です。

平野 寅次郎 拝